

ぼむ・ぼむ通信

No.45

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



~ユニセフリーダー研修・交流会から~

ぼむ・ぼむ通信 45号

目次

生協とユニセフ支援活動 30年間のとりくみ	1
「知っとこ。ユニセフ『子どもの権利条約』	3
「世界の子ども達は今『子どもの権利条約』	5
ユニセフリーダー研修・交流会	6
生協のユニセフ活動	20

京都生協：ユニセフ親子ワークショップ

コープこうべ：2008年度ユニセフスタディツアーレポート会

ぼむぼむ通信 活用のすすめ

- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでの使用をおすすめします。
- 全てのページをコピーしなくとも、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子ども達は今」を集めて、資料として活用していただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に、資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。

2

支援活動の広がり(1984年~1993年)

- わが子への愛を世界の子どもたちに -



日本生協連は1984年の通常総会において、ユニセフ支援を全国的な活動として取り組むことをよびかけました。はじめの10年間は3年ごとに活動のテーマを定めた募金活動を開催、各地で始まった取り組みには、それぞれの生協の工夫と一人ひとりのお母さんたちの支えがありました。そして行動する前にまず、学習するという姿勢もありました。



第1期の活動（1984~1986）～緊急援助～

スタートした最初の3年間は、アジア、アフリカの飢餓が日増しに深刻化していった時でしたのでなんといっても緊急に援助のための活動資金が必要でした。日本ユニセフ協会からの支援の訴えに応えて各地の生協では、飢餓の実態を知つてもらおうとさまざまな機会を活用しパネル展示や学習会を開催しました。途上国の子どもたちのおかれている悲惨な状況は組合員の、お母さんたちの胸を痛ませ多額の募金が集まりました。この時、呼びかけのことばとなったのが「わが子への愛を世界の子どもたちに」です。今でもよく使われていることばです。



第2期の活動（1987~1989）～予防接種～

学習が深まるにつれて、この頃の途上国では予防接種が受けられず命を落とす子どもが多いこともわかりました。どこの国でも母親にとって一番悲しいのは我が子の死であることを、活動を進めるなかで共感しあえるようになりました。わずかな費用で予防接種が受けられるならばとこの3年間の募金の目的を「予防接種募金」と定め、「進めよう予防接種募金、家庭で地域で世界の協同組合の人々と共に実現しよう」というスローガンを掲げました。100円の募金できること、500円の募金できること、1000円の募金できることなど分かりやすく具体的な援助の事例をしめしながら進めていきました。この予防接種のための募金は世界中で取り組まれ、途上国ではワクチンを運ぶためのネットワーク作りもできました。

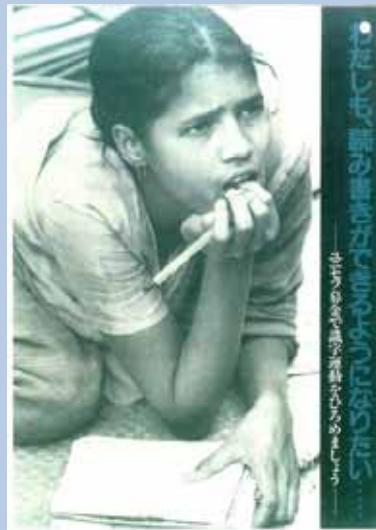
明るいニュースもありました。このキャンペーン最終年の1990年末には当時の世界的目標であった80%の予防接種率が達成され、生協で集められた募金も予防接種普及事業の成功に貢献することができたのです。病気の苦しみや死から幼い子どもたちを救いたいというお母さんたちの願いも少しずつ実現されてきました。



3期の活動（1990～1992）～識字教育～

インドの山奥に住むシータの話を覚えてますか。「わたしも読み書きができるようになりたい・・・・ユニセフ募金で識字運動をひろめましょう」というあの人冊子に描かれていた10才の女の子のことです。「世界のすべての母と子のしあわせのために、世界のすべてのお母さんが読み書きができて子どもの命が守れるように」と、生協が掲げたスローガンを合い言葉にした「識字教育運動」のための募金に取り組みました。

文字が読めない、書けない人がほとんどなくなった日本で、途上国の非識字者の多くが女性であることを知り、識字は子どもと母親の健康を守り死亡率を減らす上でも大きな意味があることを私たちは学習しました。「学校へいきたい。文字や計算やいろんなことを教えてほしい」と願う途上国の子どもたちには等しくその権利があることです。その希望をかなえさせたいと組合員のお母さんたちはフリーマーケットやリサイクルバザーを開いたり、パネル展示の巡回、地域の外国人との交流など、それぞれの生協で、自分たちの暮らしレベルで実施しました。得意の口コミも役立ちました。



出典：わたしも、読み書きができるようになりたい・・・ - ユニセフ募金で識字教育運動をひろめましょう -



出典：わたしも、読み書きができるようになりたい・・・ - ユニセフ募金で識字教育運動をひろめましょう -

（3回シリーズでお届けします。最終回の次回は1994年～現在までの予定です。）

知りたい？ 知っとこ。ユニセフ 子どもの権利条約②

子どもの権利 ・・あらためてもう1度 「権利」 ってなあに？

人間らしく

生きるため

必要なことを

手に入れられること

子どもの権利条約 1条～40条の見出しの中から 権利ということばを探し出すだけで・・・・
生きる権利・育つ権利・名前・国籍をもつ権利・親と引き離されない権利・他の国にいる親と会える
権利・よその国にさらわれない権利・意見を表す権利・健康・医療への権利・社会保障を受ける権利・
教育を受ける権利・休み、遊ぶ権利など たくさんでてきます。

条約は**子どもにとっていちばんいいことは何かを** 考えなくてはならない、と言っています。
そして、大きく分けて次の**4つの子どもの権利**を守るように定めているのです。

生きる権利

妨げる病気などで、命を失わないこと。
病気や怪我をしたら治療を受けられること

育つ権利



教育を受け、休んだり遊んだりできること。考えや信じることの自由が守られ、自分らしく育つことができること。

子どもの権利

守られる権利

あらゆる種類の虐待や搾取などから守られること。
障害のある子どもや少数民族の子どもなどは特別に守られること。

参加する権利

自由に意見をしたり、集まってグループを作ったり、自由な活動を行ったりできること。

守られる権利・育つ権利 この2つは 守ってあげなくてはならない 育っていく大切な時期の子どもだからこそその 権利といえます。

子どもの権利条約・・その特徴的な条文は

3条「子どもにもっともよいことを」子どもに関係のあることを行うときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなくてはなりません。

6条「生きる権利・育つ権利」すべての子どもは、生きる権利をもっています。国はその権利を守るために、できるかぎりのことをしなければなりません。

12条「意見を表す権利」子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。

18条「子どもの養育はまず親に責任」子どもを育てる責任は、まずその父母にあります。国はその手助けをします。

31条「休み・遊ぶ権利」子どもは、休んだり、遊んだり、文化・芸術活動に参加する権利があります。

日本では当たり前のことがまだまだ 守られていない国があります。

7条「名前・国籍をもつ権利」子どもは、生まれたらすぐに登録（出生届など）されなければなりません。子どもは、名前や国籍をもち、親を知り、親に育ててもらう権利をもっています。

11条「よその国に連れ去られない権利」国は、子どもがむりやり國の外へ連れ出されたり、自分の国にもどれなくなったりしないようにしなければなりません。

22条「難民の子ども」ちがう宗教を信じているため、自分の国の政府と違う考え方をしているため、また、戦争や災害があこったために、よその国にのがれた子ども（難民の子ども）は、その国で守られ、援助を受けることができます。

28条「教育を受ける権利」子どもには教育を受ける権利があります。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるという考え方からはずれるものであってはなりません。

34条「性的搾取からの保護」国は、子どもがポルノや売買春などに利用されたり、性的な暴力を受けたりすることのないように守らなければなりません。

38条「戦争からの保護」国は、15歳にならない子どもを兵士として戦場に連れていくってはなりません。また、戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。

では 日本の子どもたちには 必要のない条約？いいえそんなことはありません。

5条「親の指導を尊重」親（保護者）は、子どもの心やからだの発達に応じて、適切な指導をしなければなりません。国は、親の指導する権利を大切にしなければなりません。

14条「思想・良心・宗教の自由」子どもは、思想・良心・宗教の自由についての権利を尊重されます。親（保護者）はこのことについて、子どもの発達に応じた指導をする権利および義務をもっています。

19条「虐待・放任からの保護」親（保護者）が子どもを育てている間、どんなかたちであれ、子どもが、暴力をふるわれたり、むごい扱いなどを受けたりすることがないように、国は子どもを守らなければなりません。

条約は締結（守ると約束すること）すればそれで問題が解決するわけではありません。
それぞれの国がどう実現していくかが大切です。



世界の子どもたちは今

《子どもの権利条約》

No.2

わかってないな～。
このあいだユニセフハウス
で習ったろう?
「子どもの権利条約」!
それを守るために
努力してるんだ。
遊ぶのも「権利」、
チームを作って
「参加する権利」、
自分らしく
「育つ権利」だろ、
それから
え～と…

NO～



遊んでばかりで
宿題忘れてるつ
て、お母さん
カンカンだよ

間違ってはいないけど…
自分の事ばかりじゃなく、
世界の子どもたちはどう?
「生きる権利」さえ
守られていない
ところもあるよね?



ジュニア・エイト
ところで「J8サミット」って知ってるかい?
世界14カ国から子どもたちが集まって、
「地球環境」「貧困」「戦争」「教育」
など多くの問題を話し合い、
アイデアや希望、意見を「宣言文」に
まとめて世界に向けて発信したんだ。
各国の首脳陣とも面会したんだよ。
子どもたちが
行動を起こしたんだね!



そうだよ!
だからユニセフも
がんばってるんだから



ぼくも、
「子どもの権利」
を守るために、
もっと
行動だ～!!

2009 年度ユニセフリーダー研修・交流会を開催しました

東日本会場

日程：2009 年 8 月 24 日（月）13：30～25 日（火）15：00 まで

会場： ユニセフハウス

参加生協： なのはな生協、ちばコープ、エフコープ、さいたまコープ、岩手県学校生協（24 名）

西日本会場

日程：2009 年 8 月 27 日（木）13：30～28 日（金）15：00 まで

会場： コープイン京都

参加生協： 富山県生協、ならコープ、コープぎふ、コープいしかわ、コープえひめ、めいきん生協、京都生協、コープみえ、みかわ市民生協、鳥取県生協、コープしが、おかやまコープ、コープこうべ（44 名）

スケジュール

1 日目：

時間	内容
13：00～13：30	受付 •参加人数確認、夕食交流会の確認 •宿泊ホテルの案内 •参加費支払い（当日払いのみ。その後は後日振込み）
13：30～13：35	あいさつ 配布資料、スケジュールの確認
13：35～13：55 13：55～14：40 14：40～15：00	プログラム 導入 ユニセフを理解しよう アイスブレーキング「ユニセフビンゴ」（20 分） 日本ユニセフ協会からのおはなし「ユニセフと（財）日本ユニセフ協会」（45 分） ラオスってどんな国？（20 分）
15：00～15：15	休憩（15 分）
15：15～16：30 16：30～16：45 16：45～17：15	プログラム ユニセフ現地報告 ユニセフ現地報告：菊川穰（財）日本ユニセフ協会団体・組織事業部係長（75 分） グループでの感想交流・質問出し（15 分） 質疑応答（30 分）
17：15～17：20	インフォメーション •今後のスケジュール確認
17：20～17：30	移動
17：30～19：00	夕食交流会 •夕食（お弁当） •参加者の自己紹介と交流

2日目：

時間	内容
7：00～8：30	朝食
8：30～	チェックアウト 各部屋ごとにチェックアウトをお願いします。 飲み物、電話代は個人でご清算ください。
9：00～9：20 9：20～10：50	プログラム ユニセフのことを知ってもらおう ・アイスブレーキング（20分：1日目とグループを変える） ・ワークショップ「新・貿易ゲーム」（90分）
10：50～11：00	休憩（10分）
11：00～11：50	事例報告 ユニセフ学習・広報活動の取り組み（50分） (東) (西) なのはな生協 / 富山県生協 千葉コープ / ならコープ エフ・コープ / コープぎふ 埼玉コープ / みかわ市民生協 岩手県学校 / コープえひめ 5生協×10分
11：50～12：05	•グループ交流（15分） 報告を聞いて良かったことや質問などをグループで話し合います。 記録用紙に一つだけ書き出します。
12：05～12：30	•発表・意見交換（25分）
12：30～13：20	昼食（お弁当）
13：20～14：05 14：05～14：35	プログラム ユニセフ協力活動の発展に向けて ユニセフ活動の広がり：グループごとにアイディアを出しワークシート（45分） •発表・意見交換（30分）
	•終わりのあいさつ •まとめ、ふりかえり、アンケート記入

ユニセフ現地報告「レソト、エリトリアの経験から」
(財)日本ユニセフ協会 団体・組織事業部 菊川穰さんのご報告



（経歴：98年よりユネスコ南アフリカ事務所にて教育担当官として2年間勤務。2000年にユニセフに異動し、6年半レソト、エリトリアでの現地事務所において、青少年育成、子ども保護、及びHIVエイズ分野を中心とした調整・管理業務に関わる。）

まず、ユニセフの活動と聞いて思い浮かぶものに、人道支援（医薬品、栄養補助食カウンセリング）、保健（予防接種、保健教育）、教育支援（教員養成、学校建設、文房具配布）、水・衛星（井戸、トイレ建設、衛生教育）、子どもの保護（孤児支援、虐待防止）、アドボカシー・啓発活動（エイズ予防、児童ポルノ、子どもの参加）が挙げられると思います。その中でも私は教育分野の専門家として、南アフリカのユネスコ現地事務所（1998年～）で勤務、その後ユニセフへと転職し、また教育分野での支援に関わるつもりでいました。しかし、レソトへ行くと、現実は教育問題よりもエイズの問題があまりに深



刻で、専門であった教育分野の活動よりもエイズの問題に幅広く関わるようになりました。そのようにして教育、保健分野を始め、水と衛生など、様々な分野に横断的に関わるようになりました。それでは、写真を見ながら、私が経験したこと、現地の状況などを話していきます。まずは、エリトリアの西部、スーダン国境付近でエイズ予防のためのワークショップを行っている写真です。ワークショップに参加しているナラ族の習慣として、男性と女性が同じ場にいってはならない、交わらないという決まりがあります。その習慣に従い配慮しつつ、エイズへの偏見を取り除くようエイズ予防のキャンペーンを実施しました。この写真でも、男性・女性は別々に集まり離れてエイズの話を聞いています。手前に座っているのが女性の集団、奥に見えるのが男性の集団です。



写真は、ティグレ族の人々です。



これはエリトリアでのソマリア人難民キャンプです。

ここでは積極的にU N H C Rと共にエイズ予防活動に励みました。



これはビタミン A 投与キャンペーンを記念して、地方の村レベルの記念式典に出席し、ビタミン A を子どもに垂らしている瞬間の写真です。ビタミン A 投与は、ユニセフが関わる保健医療活動の中でも最も費用対効果が高いものです。たった

一滴で免疫が3倍ほど強化されるのです。予防接種と同様に大事な活動ですね。キャンペーンの普及のために、大きなキャンペーンポスターが外に張り出されました。



蚊帳を配ることも保健分野の活動の一つです。しかし、ただ配ってもだめです。もともと蚊帳を使う習慣のないところへ配っても、風通しが悪かったりするので、使ってくれないので。だから、大きい看板や、チラシを配り、蚊帳を使う意味

や重要性を伝え、普及させることが大切になります。

診療所にソーラーパネルを設置しました。ユニセフの活動とあまり関係ないように思われるかもしれません。しかし、人々が頼りにしている診療所に電気がないのはとても危険なことです。例えばワクチンは一定の温度で保管しないと、その効果を失ってしまいます。診療所に電気がなければ、冷蔵庫でワクチンを保管することもできません。こうしてソーラーパネルを設置したことによって、電気不足や停電の心配がなくなりました。しかし、電気の他にも、診療所における水不足も深刻な問題です。



今度は子どもの保護に関わる活動です。この写真に写っているのは、戦争で父親を失った家族です。テントをつぎはぎで修復し、なんとか暮らしています。ユニセフは政府を通して、こうした孤児に対する生計支援も行っています。

次は水と衛生に関わる活動です。この写真に写っているのは井戸ですが、ちょっと特殊な井戸で、手前がポイントとなっています。年間100mmしか雨の降らないエリトリア紅海沿岸部では、(東京は年間2000mm)水と同じくらい、動物(特にラクダ)は財産であり、労働力です。動物のことをとても大事にしているエリトリア人なので、人間用と別に、動物用の水飲み場を手前に作りました。分けないと、動物と一緒にでは衛生的に良くないので、人間用の方は石で囲いを作っています。



エリトリア紅海沿岸部では、まるで月面のような光景が広がり、あたり一面石ころしかありませんでした。ずっと地平線です。年間平均気温40度、日中50度、路面60度くらい。支援や調査に向かう途中、ユニセフの4輪がショッちゅうパンクしました。



そうしてパンクを繰り返しながら向かったのは、干ばつがひどい地域へ水を確保するための調査です。ある村へ貯水池の整備に行きました。行くと、そこは海沿いの漁村で、貯水池は別の村(すぐ近くの島)にあると言われ、早速その島へ。写真は、その島へ向かっている途中、船を降りて歩いて島へ向かっている様子です。ようやく島に到着しても、見渡す限り何もありません。貯水池はどこにあるのか?なんと、広大な荒れ地の下が貯水池になっていました。写真に写っているのがその入り口で、中が巨大な空洞になっています。年間ちょびっと降る雨水を地下に貯めて、ふたをして保存する。そこから、対岸の島から汲みに来て、水を使っていたそうです。見事な仕組みにとても驚きました。しかし、今までその方法で十分に水を確保することができましたが、最近では足りなくなつたそうです。



それにしても、こんな見事な貯水池、誰が作ったのでしょうか？調べてみると、オスマン帝国が支配していた時代に作られたものだということがわかりました。オスマン帝国時代の文明発達に伴い、このシステムは作り上げられ、現在まで引き継がれてきたのですね。

わかり易い支援とソフト型支援

これまで私が話してきた活動には予防接種など比較的イメージしやすいものもあれば、貯水池の調査などユニセフの活動としてイメージしにくいものもあったと思います。では、支援者にとってわかりやすい支援の重要性とは一体どのような点にあるのか、というと、ユニセフの説明責任に関わってきます。支援者の募金がどこで、どのように、何に使われているのか、はっきり明示する責任がユニセフにはあります。支援者の方々の立場に立って、なぜユニセフに募金をするのか、と考えると、まず子どものために、ということが言えます。子どものために、直接的な支援（予防接種、学校の建設、栄養補助、文房具等の物資支援など）はイメージが具体的で、必要性が明確な上、募金として結果が見えやすい。子どもたちのためにも、支援者の方々への説明責任といった意味でも、このような直接的でわかりやすい支援というのは重要になります。



ただ、途上国の現場におけるジレンマもあります。現場の本音として、箱物・物資支援は現地ユニセフ事務所にとては運営が大変ということが言えます。日本のように制度が整っておらず、官僚的なシステムを通さなければいけないため、学校一つ建てるにも大変時間がかかります。物資支援も、物を待たなければいけないので時間がどんどん過ぎていきます。そのため、いつまでも報告書が作れません。しかし、箱物支援は、支援者からも、現地政府関係者（特に政治家）からも期待されている分野なのです。政治家からの圧力など、とても悩まされました。利益流用にならないよう、徹底しましたが、とてもやりづらかったです。その点、ソフト型支援は、見えにくいが支援しやすいのです。



この写真は栄養失調の子どもを助ける緊急物資として届けられたおかゆのものですが、ある村の診療所に山積みにされていました。この村ではもう十分に栄養失調の子どもに物資を与えることができたのですが、まだまだ山積みになって残っていました。賞味期限はあと 2 週間くらい、しかしニーズのある他の村の診療所へ運ぶ車がなく、看護師は一人で何百人の村人を診る責任があるので、届ける暇がありません。診療所には患者が溢っていました。肺炎の少女が、ただ点滴を打たれている様子をよく覚えています。支援物資に対するニーズがあっても、それが周りきらないジレンマを痛感しました。



以上のような点からも、現場におけるソフト型支援の必要性を感じます。長期的視野に立った政策提言、法改正等の上流レベルに対する支援が重要な要素となります。また、途上国政府によるオーナーシップを高めるための支援の拡充も必要です。ユニセフによる支援を一過性にとどめず、途上国政府の自立を促す支援を行い、自助努力を促進することがとても大切なのです。写真は、レソト政府が作ったユニセフが入っている国連ビルです。

レソトの文化とユニセフ支援活動の共存

教育

学校に行っている子どももいる一方で、女の子は保守的な考え方のため、学校に行かずに家の手伝い…という他の途上国のパターンとは違い、レソトはその逆で、多くの男の子が学校に行っていません。その理由は、男の子が牛飼いをしなければならないからです。レソトは山国で、1000m以下の地がない唯一の国です。男の子は、放牧を一人前にできて男、というのが昔からの決まった文化でした。そんな男の子たちに、牛飼いを辞めて学校に来なさいと言っても、来てくれませんし、来てもすぐに辞めてしまいます。牛飼いをするのに、文字を読んだり書いたりする必要がないからです。だから、ユニセフは、学校に来なさい、だけなく、夜に小学校でやっている識字巡回教室を現地 NGO と共に行いました。ソフト型支援の 1 例です。そうすると、牛飼いをしながらも、男の子たちは勉強することができます。そして夜間学校に通っているうちに、文字が読める方がいい、とわかつてくれました。牛飼いをする伝統文化を尊重しながらも、夜間の識字巡回教室を行ったことで、牛飼いの子どもたちも学校を卒業することができました。写真は授業の様子と、卒業式での一枚です。



ここで、個人的なエピソードなのですが、印象的な経験だったので話しますね。アフリカは暑い、というイメージが強いと思いますが、レソトは山に囲まれ、冬は雪も降るほどとても寒い国です。ある冬の夜、夜間教室へ行く途中に、車が川にはまってしまいました。2 時間くらい経ったときでしょうか、なかなか到着しない私たちを心配して、夜間教室の子どもたちが探しにきてくれて、助けてくれたのです。本当に寒くて、とてもこたえました。そんな中、みんないつも勉強しているのだ、とふと思い、その努力に感動したのを覚えています。



エイズ

レソトでは、エイズの問題がとても深刻でした。近年改善されてきてますが、それでも成人の 3 ~ 4 人に 1 人の割合がエイズにかかりっています。その背景として、南アフリカでそもそもエイズに対する偏見や、処女の幼児をレイプするとエイズは治る、という迷信が蔓延していることが挙げられます。とても衝撃的で、私もショックを受けましたし、信じられないかもしませんが、普通の生活をしている人も、そのような価値観を持っていました。人々が頼る占い師のおばさんが、処女をレイプすればエイズは治る、というとんでもないことを言ってしまっていたのです。今はキリスト教が普及していますが、昔の日本のように、昔からあった精霊や妖怪を信じる伝統的宗教が



あり、現在でも重んじられています。そのため、祈祷師の言うことを人々は信じてしまうので、そのような立場にある人々にも科学的実証に基づいたカウンセリングを実施しました。伝統文化を尊重することはとても大切ですが、それが子どもたちを危険に曝しているのでは、黙って見過ごせません。

子どもたちがNGOのイベントに集まり、テコンドーの練習をしていました。韓国の軍の範士がアフリカで普及させたそうです。とんでもない迷信から身を守るためにも、子どもたちの護身術にちょうどいいですね。

現在の仕事として

現在は(財)日本ユニセフ協会で働いていますが、その仕事を通して、支援者の方々にソフト型支援の重要性を理解してもらえるよう努力しています。夜間識字教室にしても、単純に教えても彼らにとってリアリティはありません。だから、日曜日に集めてマッピングを行い、自分たちの問題を自ら認識して、問題意識を共有させました。単に学校を建て、授業を行うだけでなく、文字を学ぶことの重要性を子どもたちに感じてもらえるような支援をすること。そして、彼らの声を聞いて、それを基に教材を作ること。こうしたソフト型支援は今後もっと行われなければいけません。



また、レソトでは祈祷師の影響力の強さに圧倒されました。表面的な支援だと、伝統文化を守る人々からジェラシーを生んでしまいます。なので、地道に、文化を理解しながら活動を一緒に行っていくことがとても重要でした。ユニセフはそういった活動の一番中核にあるのだと思いました。

質疑応答

・レソトという国の歴史的背景や現状は？

レソトは周りを南アフリカに囲まれている国です。多くのアフリカ諸国が植民地支配を受けていた一方で、レソトが今までその国を守り抜いた要因は2つあります。1つは、19世紀中盤にモーセス一世という立派な王様が国を死守し、植民地支配を受けなかった、ということが言われています。ズールー王国のシャカ王と並ぶ、優秀な指導者で、軍事的リーダーとして有名です。もう一つの要因としては、山に囲まれた国なので、侵略者側からしてみると、経済的価値があまりなかったということがあります。南アフリカの他の部分が平地であるのに対し、レソトは山に囲まれ農業に適していませんでした。列強諸国にとってレソトはあまり魅力的に映らなかったのです。しかし、後にダイアモンドが見つかり、イギリスの保護下（保護領）となります。逆にイギリスの保護下に入ったことで、他の国に侵略されることなく、結果的には独立を守ることにつながりました。

また、レソトは反アパルトヘイトを最前線で推進した国です。多くの欧米諸国はみなレソトに大使館を置き、（南アフリカでなく）反アパルトヘイト運動を実施しました。

しかし、そのような歴史的貢献を果たした独立国ではありますが、経済的な面で、南アフリカに大きく依存しています。レソトには大きなダムがあり水は豊富ですが、町には水を浄化する施設がないので南アフリカなど近隣諸国に依存して水を確保しています。

・祈祷師を信じている文化の国ですが、薬などを受け入れてもらうためにどう工夫した？

祈祷師を筆頭に伝統的な習慣を続けていようと、教育水準は高い方で、科学的薬品に抵抗はありませんでした。しかし、教育水準が高いからと言って、同じ価値観ではありません。乳幼児をレイプするとエイズが治るなどという、とんでもない考えが蔓延していました。想像しがたいが、事実でした。構造的な問題として、男尊女卑という伝統的な価値観があるためです。私は教育分野を専門にしてきて、特に女の子や、個人の人間開発、教育によって世界は変わるので、と楽観しておりましたが、レソトでの考えはひっくり返されました。レソトでは、女の子のほうが教育を受けているけど、社会に出れば男尊女卑。例えば政府で働く人でも女性は多く、彼女たちはとても優秀なのですが、家に帰ると夫から暴力受けているケースが多くありました。それが当然だというほど、強い価値観の違いがあります。そんな現状を聞き、教育だけでは変わらない、教育は伝統的価値観変えられない、と思いました。いくら教育を普及させ正論言っても、吸収されないからです。文化的、宗教的問題を排除していくかないと、根っこは変わっていかない、と強く感じました。

・MDGについて詳しく教えてください。

ユニセフは、中期事業計画の中で国連ミレニアム開発目標（MDGs）の達成を他の国連機関や国際社会とともに目指しています。MDGsとは、2000年9月の国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言に示された課題と、90年代に採択された国際開発目標を統合し始めたもので、8つの項目において2015年までに達成すべき具体的な数値目標を掲げています。

つまり、ユニセフの活動がMDG達成の拍車をかけるということです。MDGの8つの項目にはのっていないもの（子どもの保護における、少年兵、児童労働、地雷から子供を守る）は、ミレニアム宣言にしか明記されていませんので、ユニセフはその重要性も訴えています。

・具体的にどのような成果が6年半で、ユニセフとしてありましたか？

レソト3年、エリトリアで3年半活動しました。まずレソトでの成果というと、まとめるのは難しいが、青少年のグループが、積極的に自分たちで実施していくような、政府の活動作りを青年省の局長とともにできたのが一つ。小さい国なので、エイズ予防の青少年活動の促進ができたのではないかと思います。もちろん反省もいろいろありますが。子どもの保護の分野では、子どもの参加に積極的に関わり、2001年に法律を変える、見直すプロセスに携わりました。2006年にその法が改正されたとき、そのプロセスに貢献できたのではないかと感じました。

エリトリアでは、独裁国家だったので、活動がしにくいというのが正直ありました。ノルウェー政府からの支援を拡大要請し、その予算をエリトリアへ回しました。エリトリアはアメリカの支援、WFPの支援を追放していましたし、その中で、ユニセフがエリトリアでも信用され、支援を実行できたのはよかったですかなと思っています。

活動報告

【東日本会場】

なのはな生協

- ・ 組合員さんがユニセフ委員会をつくり、活動している。
- ・ 緊急募金（ミャンマー）
- ・ 子どもポルノについてなど、ユニセフ委員会で勉強（今年で3年目）
- ・ お年玉募金、外国コイン募金
- ・ ユニセフ便りの発行（年2回）
- ・ ユニセフハウス見学
- ・ ビデオ上映会
- ・ ヨガ講座開講。参加費をユニセフに寄付。
- ・ 生協祭りに参加して広報活動（外国コイン、ユニセフ手帳配布、ユニセフクイズなど）

Q：資料の中で、船橋市中央公民館を借りたそうですが、生協の名前で借りられましたか？生協名を出すと借りるのが難しいのですが…

A：～の会、というかんじで借りました。

千葉コープさんから：千葉でも会場を借りるのは難しかったが、少しずつ借りることが可能になってきています。

Q:ユニセフ委員会の活動資金は？

A:なのはな生協からユニセフ委員会への予算を組んでもらい、その予算内でイベントなどの企画・運営をしています。

Q：どのように組合員で委員会立ち上げましたか？

A：まだ入ったばかりで詳しいことはわかりませんが、たぶん、組合員さんのユニセフのために頑張りたい、なにかしたいという思いが形になったのでは。私自身は、子どものために、と思って参加しました。何も知りませんでしたが、興味があり、一緒に勉強していくようになりました。子どものために、ということに共感された組合員さんが委員会をつくっています。

Q:ビデオ上映会は、親子一緒に？

A:ユニセフ視聴覚ライブラリーから借りました。ミーナシリーズで子ども向けビデオを上映し、その後ブレーク、それから大人向けのビデオを上映。生協のお菓子などを配布しました。参加者の年齢を考慮してから、ギリギリで上映作品を決定。

ちばコープ（職員さん、平和担当、6つのエリアソーター）

- ・ 千葉県支部と千葉県コープが共同して活動している。
- ・ 募金として、お年玉募金…注文用紙に募金用紙をつけることで、募金しやすく。
- ・ 組合員広報紙「おしゃべり広場」の中でユニセフ活動の広報。（募金使途など）
- ・ 「私たちの募金が子どもたちの笑顔に」にて、募金使途を詳しく。

- ・ 県支部は千葉県内のユニセフ活動を把握。最初は距離がありすぎたが、近年では話し合いを定期的に、月1度の活動の振り返りと予定。
- ・ ラブウォーク、スタディツアーレポート会、サポートゴルフ、ハンド・イン・ハンドの実施
- ・ 5周年記念式典
- ・ ミニ学習会、ユニセフの集い
- ・ 今後は…学習会の講師の募集、養成
- ・ 組合員のコープ会…「しゃべって、食べて、情報ゲット」1年に10回のうち、1回がユニセフについての会。識字ゲームを実施したり、ハッピーミルクプロジェクトについて話し合い。今年は、ハンドにつながるような会にしたい。
- ・ ユニセフグッズの頒布を早める

Q:伸び悩んでいる会員生協へのアドバイスはないか？

A：組織改革にて見直しがされました。平和、ユニセフ活動を政策課題として位置づけています。ボランティア活動だけでなく、具体的な組合員活動となるよう位置づけを明確に。他とは違い委員会でないので、わかりにくいかもしれませんが、継続的に活動してきたことが結果につながったのでは。人の心を動かす、キャッチャーなメッセージを！

エフ・コープ

- ・ ユニセフ委員会のような、組合員の自主的なものをエフコープでも立ち上げたい。今はそのような委員会なく、その体制づくりに入っている。
- ・ ユニセフ活動はまだ歴史が浅い（お年玉募金は当初から）
- ・ 平和分野の活動の一環。中心がどうしても戦争や核の問題にある。
- ・ 世界の状況を組合員さんに広げていきたい。過去のことを広めると並行して。
- ・ ユニセフのパネルやグッズの展示。平和展の実施。（若者が集まる場所で）
- ・ 地域委員会で平和展の開催、ユニセフのパネルが貸出できるということをまず広める。
パネルやゲーム、水がめの貸出の要請が増加。
- ・ 募金・活動報告会。人が集まらないので、積極的に学習会などを実施。
- ・ 職員に対しての学習、研修会の実施。ユニセフのことを職員に知ってもらうため。
- ・ カレンダー募金…職員の集まりで販売、ユニセフ活動を広める。

Q:職員研修の中にユニセフ学習を取り入れ、職員に変化などは？

A:ホームワーク研修（1年目研修）にて学習を入れてもらい、アンケート収集。初めて生協のユニセフ活動を知ったという声多かった。

Q：職員研修は誰が？

A：私自身や、事務局さん、それから積極的に活動を行っている組合員さん。

Q:パネルは組合員さんによってどのように使われた？

A：各地域委員会が催す平和展にユニセフのパネルを一緒に展示。

さいまたコープ

- ・ 8 区の中から、それぞれのエリア委員が組合員活動、プラス 4 つの委員会があり、その一つが平和・ユニセフ委員会。20 人強。
- ・ アンケート結果に沿って年ごとの内容を決定。
- ・ ハッピーミルクプロジェクトを実施。
- ・ 学習会の開催、ユニセフハウス見学、スタディーツアーへ行った職員などの講演を組合員にも報告。
- ・ ハンド、県内で 22 か所で実施、ラブウォーク実施
- ・ ユニセフの集いイン埼玉の実施、細かい県支部からの報告。
- ・ 地区ごとに行われる秋のフェスタでユニセフ募金などのユニセフブース、ユニセフランドの設置。
- ・ フリマの収益を寄付、チャリティーコンサートの実施
- ・ 子どもを考慮し、学習会にお菓子作りなども実施。世界のナツツを使ったクッキー作りなど。
- ・ 県支部との連絡を密にとっている

Q: 4 つの委員会は組合員が好きな委員会を選んでいる？

A : 地区関係なく、好きな委員会に。県全地区を対象に。

Q: チャリティーコンサートは家族向け？

A: 地区ニュースにコンサートの告知。出演料は少額だが払っています。

Q: 規模が大きいから（人数が確保できるから）お菓子作りを実施できる？費用は？

A: そんなに大人数ではないが、24 人ほどでした。フェアトレードについても学びました。参加費は募金として、材料費はコープからの補助で賄いました。

岩手県学校生協

- ・ 小・中・高の学校の組合員がほとんど。
- ・ 年に 2 回、地区総大会にて、事業の説明、学習会。その中でユニセフ活動の紹介。
- ・ 730 校…85% の出席率目指す。
- ・ 販売チラシにユニセフグッズを載せる。
- ・ 1 年 1 回、商社が行う展示会のチャリティーオークションにて、収益をユニセフに寄付。
- ・ 感謝状があれば、贈呈式を行う
- ・ アグネス・四川省パネル展の実施
- ・ 出前講座の学習会、ユニセフすごろくの手伝い、ハンド

Q: 先生たちが学校に持ち帰り、生徒に伝えることはありますか？

A : 学習会で学んだことを授業に反映させています。

Q: 学校事業部もあるが、学校生協とはどのように関わっているの？

A: 協会の学校事業部の対象は学校。学校生協は先生（組合員）を対象に活動。学校から生協に講師派遣があった場合は、岩手県支部のお手伝いとして行っています。

ユニセフ支援活動の発展に向けて

「ユニセフってなあに？」

見て、触って、体験してみよう。

プランピーナッツの試食や展示レプリカ、蚊帳に入る体験、ユニセフすごろく、などの実施。

県支部ボランティアさんに協力してもらう。

秋、11月。生協の施設で、子ども対象に。

プランピーナッツ…日本では購入不可。代わりにピーナッツバーを試食しても？



ユニセフ夏休み親子企画： 親子で考える世界の食事

対象：今あるグループ（子ども支援グループなど）と協力して、親子対象

千葉組合員の四街道。料理をつくっている間にビデオを見せ、最後に食料ゲームを行い、振り返り。

貧しい国でどんなものを食べているか、もしくはすいとんの再現。

最後に子どもたちに世界の食糧事情をアメを使って理解。



1家族参加費として200円はユニセフの寄付へ、材料費などは生協から。

環境にも配慮し、マイ箸、マイカップ、マイ皿など。

募集方法？…地域エリア活動員や、広報紙など。今ある仕組みを利用する。

ラブウォークをやってみよう！

ユニセフのことを学びながら、健康のことも考えよう！

県支部にも協力要請。子どもにも安全なルート。

ユニセフ手帳、スタンプラリー制にして学習。

地雷体験も。ポイントとして設置…障害物競争みたいに。

参加費用を募金に。賛同してもらえる方みんなが対象。

何キロ？5キロ前後。



「ユニセフハウスがやってきた！」

品川に来れない人のために。秋。畑がそばにある公園で収穫体験や、水がめを運ぶ体験、さつまいもで料理、ゲームなど。ユニセフ県支部からグッズ借りる。キッズクラブやエコ団体。スタンプラリーを用い会場を回るように。

資金は系候補水煙をつくるなど。

材料は参加費と生協。

当日の運営…相当なボランティアスタッフが必要。



活動報告

【西日本会場】

富山県生協

- ・ ユニセフのつどいを開催（ワークショップ、B B Qもかねて企画）
- ・ O C Rでも募金を募り、機関誌で報告、イベント呼びかけ

ならコープ

- ・ 青年海外協力隊で現場経験のある方を招いてユニセフまつりを開催
- ・ 奈良県支部（地域組織）との連携（ユニセフグッズの頒布）
- ・ 水がめや地雷レプリカを活用して参加者に体験してもらうように工夫
- ・ “ピースアクション 2009 in なら”でもワークショップ（チラシ裏面にはユニセフの活動を報告と募金呼びかけ）

コープぎふ

- ・ 機関誌でユニセフ支援活動の紹介（ハンド・イン・ハンド、カレンダー募金、お年玉募金、O C R募金など）
- ・ アグネス・チャン大使のメッセージ、ユニセフ募金へのお礼を機関誌に掲載
- ・ ピースアクション 2009 でのブース出展（ユニセフ写真展を開催）

みかわ市民生協

- ・ お年玉募金、ハンド・イン・ハンド、チャリティカレンダー、緊急募金の呼びかけ、O C R募金、生協まつりを実施
- ・ ユニセフ写真展を開催

コープえひめ

- ・ 愛媛県支部（地域組織）との連携
- ・ O C R募金、緊急募金の呼びかけ、ハンド・イン・ハンド、お年玉募金、カレンダー募金の実施
- ・ 地場の特性を活かした多彩なイベントを企画（紙人形劇など）
- ・ 機関誌でユニセフ支援活動の報告、説明、要請

ユニセフ支援活動の発展に向けて



世界を知ろうユニセフ祭り 2009



ラブ&アース
水の大切さを知ろう



ハートフル ユニセフィヤー



キッズクッキング
ベトナム料理を作ってみよう



ワールドミステリーツアー
世界の今を知る



ユニセフプチ大使になろう
あなたもこれでプチキッズ大使

ご参加いただきましたみなさまお疲れ様でした。
是非、今後の活動にお役立ていただければ幸いです。



ユニセフ親子ワークショップ



京都生協では、毎年恒例となっているユニセフ親子ワークショップを開催し、10家族 24人が参加しました。

夏休みの自由研究のテーマにもおすすめとして小学校低学年のお子さんを対象に開催しました。短時間でしたが、『ユニセフってなあに？』『ラオスってどんな国？』『ラオスの子どもたちはどんな一日を過ごしているの？』そんな『？？？』をビデオやゲーム、お話を通じて親子で楽しく学ぶひとときとなりました。

ワークショップでは「薬と毒と水の文字が読めなかつたら…」や、天秤棒で水の重さを体験したり、ラオスの文字書き練習や衣装を試着したりと子どもは様々な体験をすることができました。



プレートにラオス語で薬と毒と水の文字が。
どれが薬かわかるかな？



手作りの天秤棒。2リットルのペットボトルが全部で6本!! 「バランスがとれない~」「重たい!」



ラオスの民族のひとつ、リス族の民族衣装を着させてもらいました。



字が書ける・読めるってすばらしい。ラオス語で文字を書いてみよう！

参加された親子からの感想は次の通りです。

～親御さんから～

- ユニセフって何？ということが今まで大きくわかつっていましたが、今回、はっきりわかり、良かったです。
- 「いのちの水」のビデオをみて、水の大切さについて子どもとよく考えて行動、実行していくたいと思います。

～お子さんから～

- てんびんぼうの水はこびが重かった（小3）
- びでおのいどのぼんぶづくりがすごいとおもいました（小1）
- 日本は水などがあってとても豊かだけれど外国などではきれいな水が無かったりしてとても大変なんだと思いました。体験した水運びはとても大変でつらい仕事なんだと思いやっている子どもは大変なんじゃないかと思いました。（小5）

ワークショップに初参加の親子の方が多く、ユニセフのさまざまな取り組みを初めて知り、身近なお友だちやお知り合いに伝え、広げていく機会にできたのではと思います。

京都生協でユニセフの取り組みが始まって今年20周年を迎えます。これからもより多くの組合員さんにユニセフの取り組みが広がるようにしていきたいです。

京都生協ではラオスに募金しています

募金活動を開始した最初の年（1990年）に、1022万円の募金が集まりました。その募金を日本ユニセフ協会に贈呈する段になり、「このような大金がどこでどのように使われるのかを知りたい」という声があがりました。

そうした声を反映する形で、1991年から「指定募金制度」に参加するようになりました。「指定募金」は、募金が一定額を満たせば、日本ユニセフ協会と話し合って、特定のプロジェクトを指定できるというものです。京都生協は、ラオスの「農村女性開発プロジェクト」を指定しました。最初は、京都生協単独でおこなっていましたが、今では参加生協が増えて18生協のとりくみへと広がっています。

なぜラオスなの

次のような理由でえらびました。

ラオスはアジアの中で5歳未満児の死亡率が高い国です。

同じアジアでも、インドやカンボジア、ネパール、バングラディッシュなどの国々より、国際援助が届きにくい国です。

ユニセフスタディツアー報告会を開催しました

コープこうべのユニセフ活動は、1982年、「飢餓に苦しむアフリカの子どもたちを救おう」という、日本ユニセフ協会の呼びかけに賛同した募金活動から始まりました。以来、26年。ユニセフ活動は、コープこうべの平和・国際活動の大きな柱として、毎年募金活動をはじめ、各地域での組合員まつりでのユニセフグッズ頒布や、組合員むけ学習会、ユニセフスタディツアーへの組合員代表の派遣とその報告会の開催などを通じて、ユニセフ活動への理解と協力を求める活動に取り組んでいます。

以下、2008年度の「ユニセフ ネパール スタディツアー報告会」のようすを報告します。

1月31日（土）に生活文化センターで「ユニセフスタディツアー報告会」が行われ、31人が参加しました。今回の報告会では、2008年11月15日～23日に「ユニセフ ネパール スタディツアー」に参加した羽島新菜理事が、現地のユニセフ活動のようすを報告しました。

ネパールの民族衣装で登場した羽島理事は、まず気候や宗教・政治体制の変遷にふれながら、現在ネパールが抱えている問題点を説明しました。

ネパールでは、ユニセフは「D A C A W（ダカウ）」と呼ばれる地域主体の女性と子どものためのプログラムに対して支援をしています。そのD A C A Wのプログラムの特徴として、地域の人々が地域の問題を解決するためのコミュニティ（チーム）を作り、自分たちの問題を自分たちで解決するために、知恵と力と時にはお金も出し合います。具体的な事例として、乳児検診の取り組みやトイレ設置、少額貸付金などが紹介されました。この中で「ユニセフが主体となって活動を行うのではなく、地域の人たちによる問題解決のサポートを行います。大切なのは自ら問題解決をしようという意識が育つことです。」と支援の考え方を説明しました。

参加者からは「ユニセフ募金というと、ワクチンとか経口補水塩などの購入と思っていたので“ユニセフは直接支援活動をしません。サポート役です。”という点が印象的でした。」「自分たちの問題を自分たちで解決するということの大切さを知りました。」といった感想が寄せられました。



スタディツアー報告をする羽島理事



また、3月12日（木）には、コープ活動サポートセンター住吉登録の「平和サークル（くらしの目線で平和を考え育む会）」が、公開学習会「ユニセフ ネパール スタディツアーに参加した羽島理事のお話を聞く会」を開催しました。この学習会には24人が参加し、ネパールの日々の暮らしが目に浮かぶような報告に聞き入りました。後半は意見交流も行われ、「手で見る絵本」の制作や国際協力活動、日本語ボランティアなどさまざまな活動に関わる参加者からの熱のこもった発言が続きました。

ぼむぼむ広場

ぼむぼむ通信第45号をお届けします。

前号を担当させていただきました石井です。7月をもって担当が変わることになりました。大変短い間でしたが、お世話になりました。

今回から編集事務局を担当することになりました、日本生協連組合員活動部の朝倉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

今月号はユニセフリーダー研修・交流会の報告が掲載されています。会員生協の活動報告もぜひご活用ください。11月にはラオススタディーツアーに行ってきます。初のラオス、今からドキドキしています。

全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。

次号は、12月15日発行予定です。お楽しみに！

ユニセフ* コープネットワーク

ぼむ・ぼむ通信

No.45 2009年9月15日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集 / 尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・谷口・朝倉

イラスト / 蟹沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホ-ムペ-ジ <http://www.jccu.coop/>